



飢餓を防ぐ ～食料自給率から探る～

班員 杉和樹 石村法明 甲斐南沙 小出凜

指導者 後藤先生 松下先生 メンター 高橋様

【1】研究の動機

現状、農業従事者減少・地球環境の変化により食料自給率が低下していることに着目し、今後延岡市民の食事はどうなっていくのか気になったため。

【2】先行研究

「食料自給率の経済分析」

<https://core.ac.uk/download/pdf/34000973.pdf>

【3】研究方法

①延岡市の近年の野菜類・肉類・魚介類等の生産量を調べる。

②延岡市の近年の人口を調べる。

③計算式にあてはめて、延岡市の人口一人当たりの一日の食事量を計算する。

【計算式】食料自給率

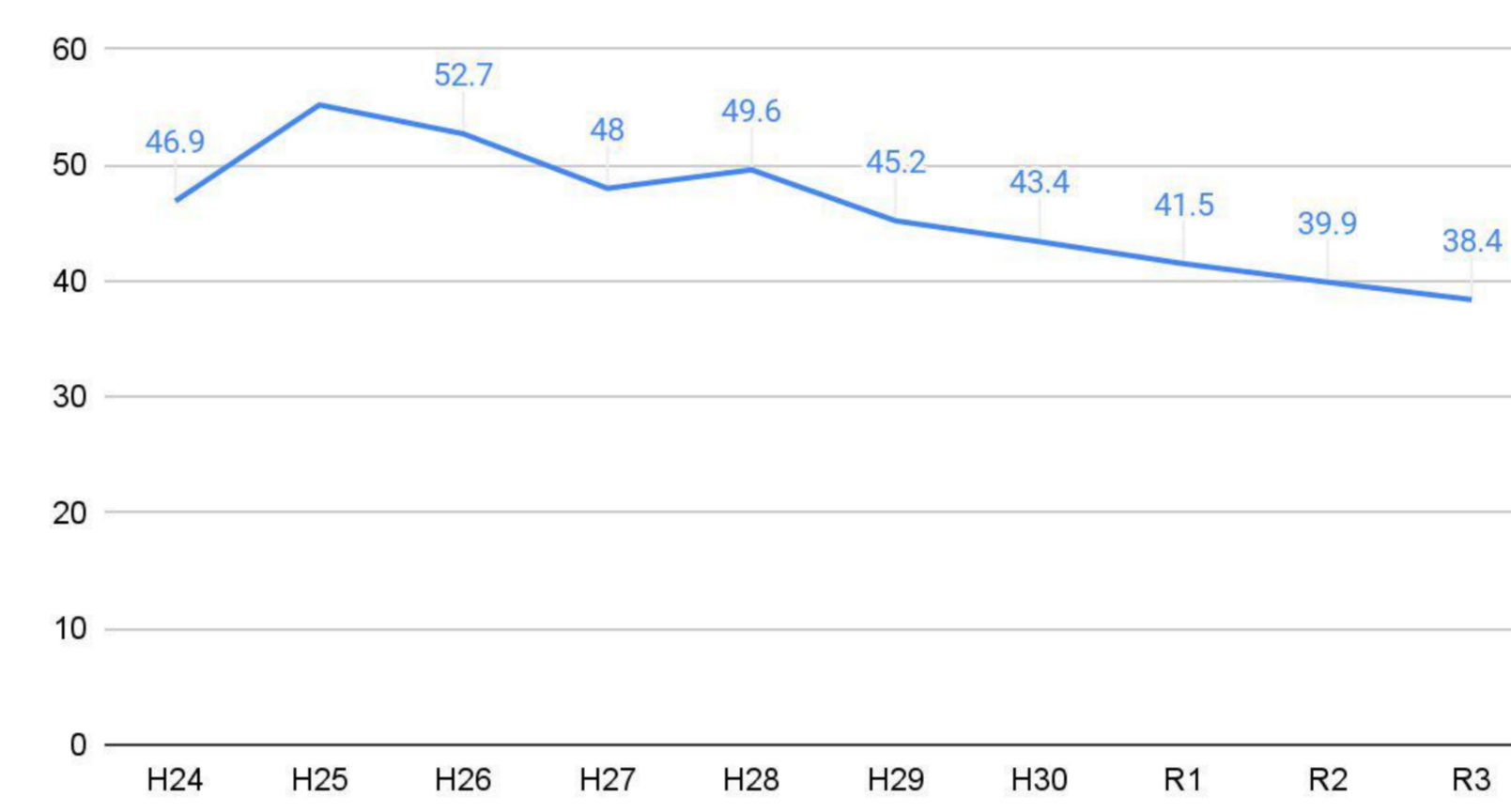
$$= (\text{年間生産量} / \text{人口} \times \text{1日の消費量} \times 365)$$

④調べて計算した結果から延岡市のみの食料自給率推移を把握し、今後どのように変化していくかを**予想・予測**し、対策を考える。

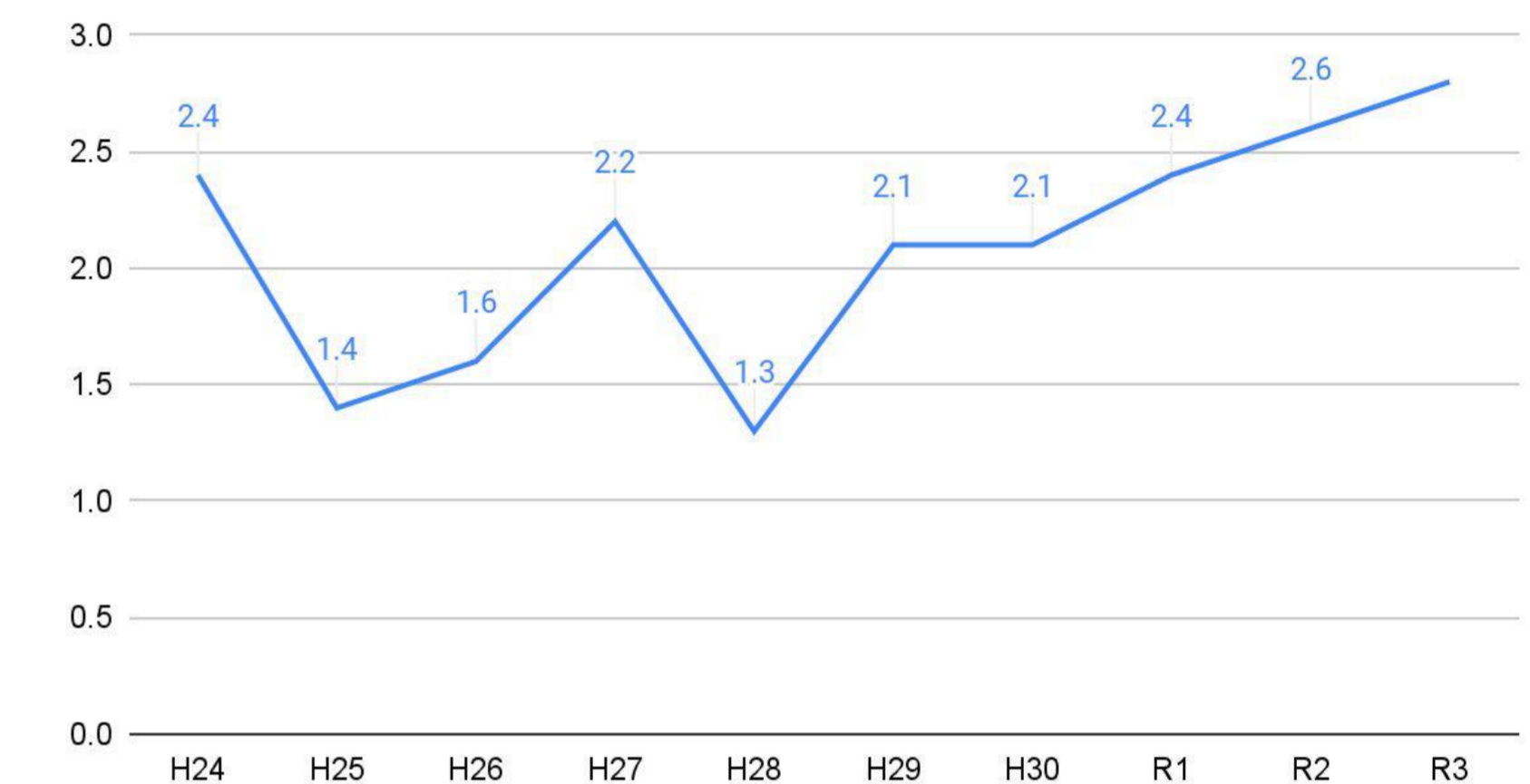
【4】疑問点・仮説

仮説： →現在延岡では食物の生産量が少ないのではないかと。
→現在日本全体での生産が減少している穀類や畜産物が延岡市でも特に減っているのではないかと。
→エネルギーになるような食料の生産を増やしていく必要があるのではないかと。

米



小麦



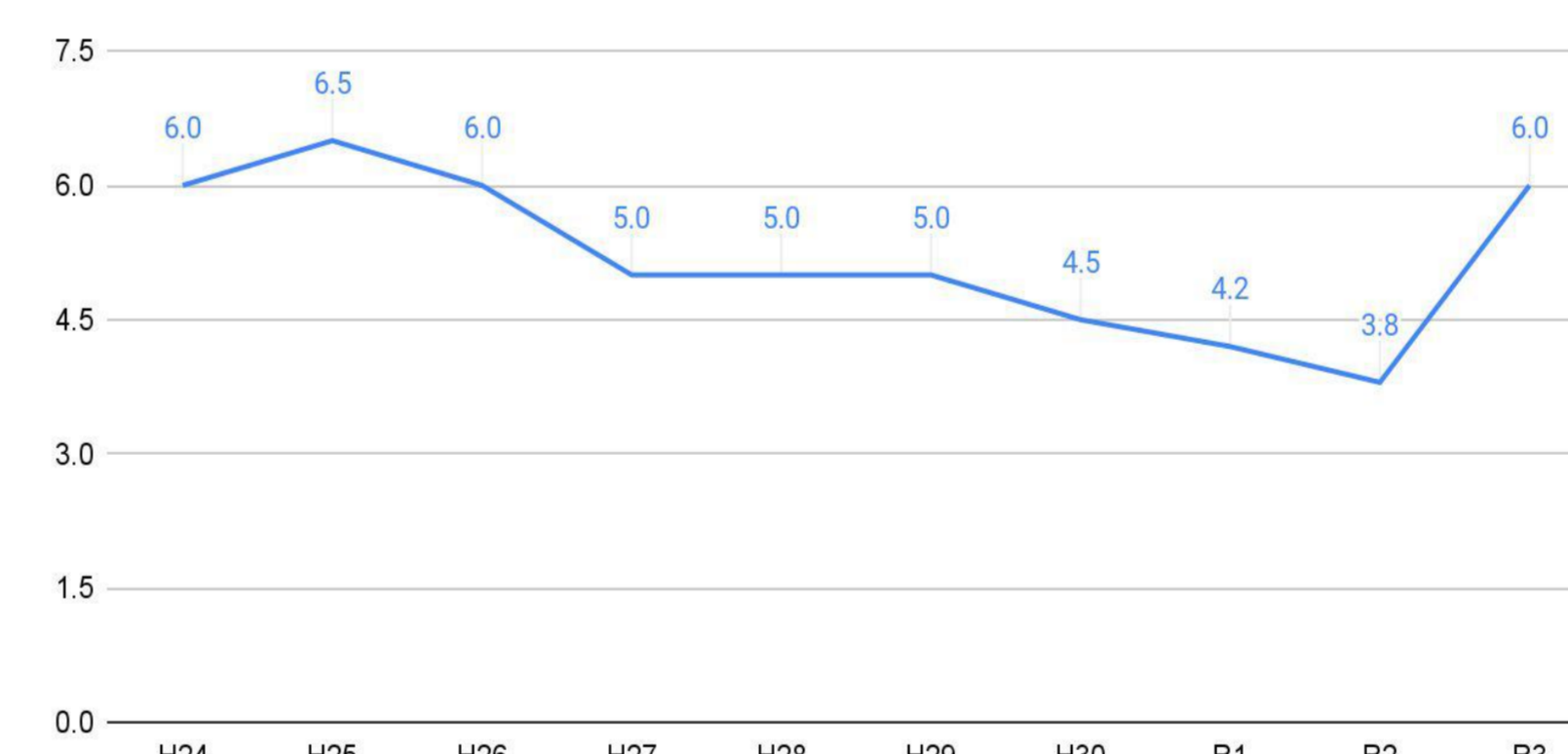
魚



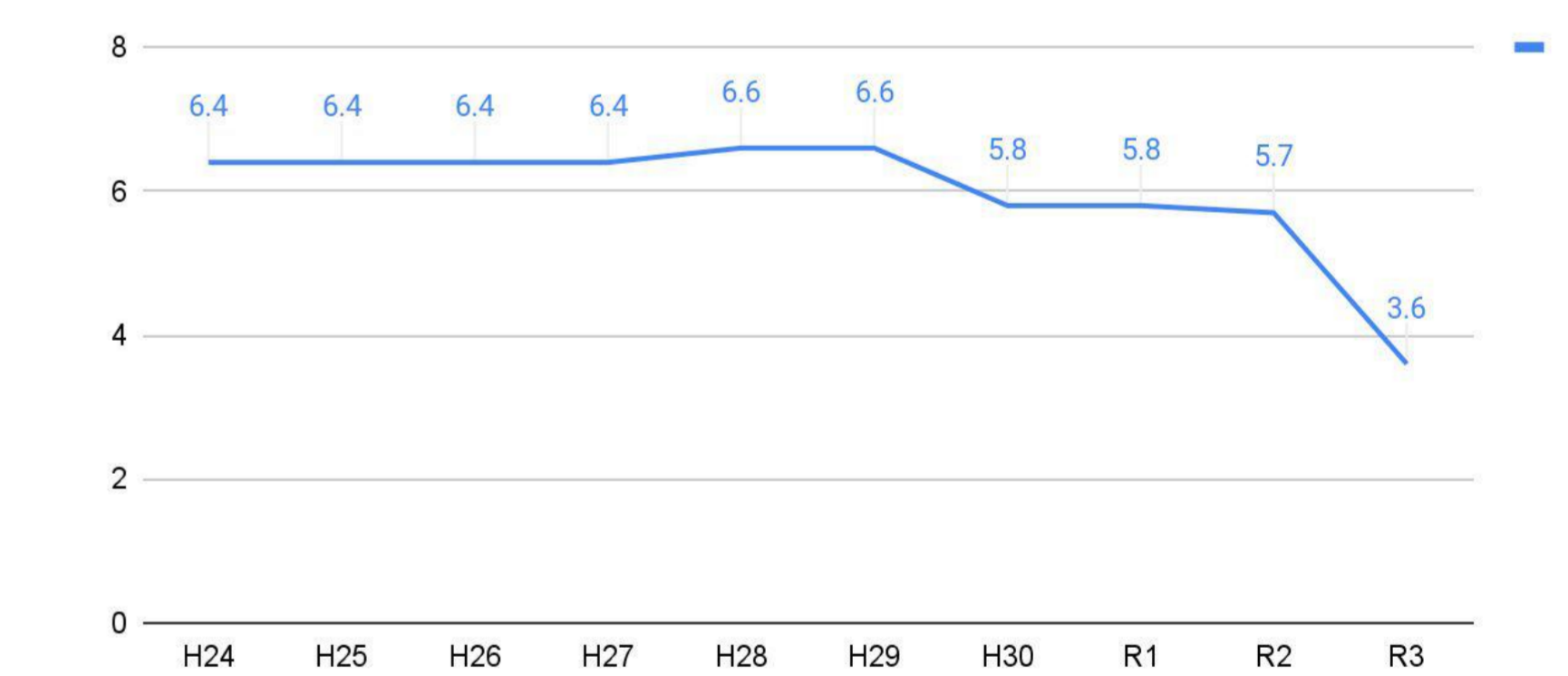
野菜



果物



たまご



【5】結果と考察

(グラフは縦軸が食料自給率(%), 横軸が年)

- ・米の自給率が減少している ・小麦の自給率が極めて低い
- ・野菜、卵ともに自給率が低い魚介類は極めて高い
- ・全国で起きているように、全体的に自給率が低く、減少傾向にあるものが多い



- ・たまごや米は減少傾向にあるため、今後も減少していくのではないかと。
- ・減少している作物、商品については、コロナウイルスなどが関係しているのではないかと。
- ・ご飯よりパンを食べることが増えているが、小麦が取れないので輸入しなくてはならない。
- ・延岡においては、魚介類の生産はとて多いため、これらを保ち、特産として生かすべきだと考える。

参考文献

不足時の食料安全保障マニュアル

「[<5461726F2D957391AA8E9E82CC904897BF88C0915395DB8FE1837D836A8385>](https://maff.go.jp/)

[\(maff.go.jp\)](https://maff.go.jp/)」

アクセス日:7月7日

謝辞

本研究において、ご指導くださったメンターの高橋様をはじめ、後藤先生、松下先生、また、協力していただいたすべての方々に感謝いたします。